

このたび、囲碁三田会の加藤彰事務局長から、「岩田会の無料体験はいかがですか？」と言われて11月15日(日)に会を見学する機会を与えていただいた。当日、囲碁三田会からは大山、小泉(玲)も見学に参加された。

岩田会は熟出身のプロとして知られる岩田一日本棋院九段が主管するアマチュアのための碁会として知られている。もう歴史が40年余になるという伝統ある会である。お聞きすると当初は慶応の仲間、岩田プロを囲む会を作ったのだそうであるが、岩田九段のお人柄を慕う塾以外の囲碁ファンも多く、現在は誰でも参加できる会に発展しており、会員は塾員が約2割という感じである。会員の顔ぶれを見ると、学生時代を岩田九段と共に過ごした年代に近い囲碁部OBで越井が会長、故佐藤(崇)、吉野が副会長に名を連ねており、会の代表幹事は加藤(彰)となっている。佐藤崇慶応囲碁部OBOG会長急逝のためその後を引き継ぐことになった澤口会長、竹中さん、さらには向原どんぐり会会長も岩田会の会員である。

先日、囲碁三田会インターネット管理者の金子さんが「岩田会は上級者の会であり、レベルが高いため、自分の棋力では参加を躊躇している。」とご発言であったが、会としては中級者、初級者も歓迎だということを知ることができた。会報を拝見すると名簿は段位順に氏名がリストされているが向原さんが二段の格付けで下から二番目に書かれており、下にはお一人だけ初段の方がおられるだけである。そこには、級位者の名前は一つも書かれていない。そういうことが金子さんのような認識を生むのかもしれないと感じた。

さて、今回の見学の記であるが、会場は市ヶ谷日本棋院、集合は11時であった。到着すると各人挨拶を交わし、11時過ぎに岩田先生の講義が始まった。取りあげる題材は最近岩田会で打たれた会員同士の対局の棋譜である。今回は六段と七段の会員の熱戦譜であり、先生の解説もレベルの高い内容となった。低段者にはレベルが高いかと感じた。ただし、取りあげる棋譜が初段二段くらいのときには、それ相応に低段者でもわかりやすい解説が行われるという。正午頃に講義が終わり、ランチタイムとなる。ランチは会が用意するお弁当の三種類くらいから好きなものを選ぶように配慮されていた。そしてランチが済むと、いよいよ対局開始である。会員は5時までにだいたい3~4局の対局をこなすようである。対局者の組合せはすべて会側が指定する。この対局の時間には希望者には岩田先生あるいはお弟子さんプロの指導碁を提供するように配慮されている。平均すると2~3カ月に一回くらいは希望すれば指導を受けられるという。

指導陣は先生の娘婿である有村八段および先生のお弟子さんである首藤七段、鈴木(歩)六段、白石五段、原四段、鈴木(伸)四段、甲田三段ほか先生が懇意のプロ棋士が適宜当番制で当たってください。この日は首藤七段が三面打ちで指導をしておられた。岩田先生指導は二面打ちである。今回塾関係では、向原会員、小泉ゲストが首藤七段のご指導を受けた。

また、現院生や元院生の強い方が会員として参加くださっているので、そういう方々の胸を借りることもできる。参加者は全員会費5000円を会に支払うが、昼食、指導碁が無償で提供されるから、良心的な運営である。なお、会の運営には会の幹事諸氏だけでなく岩田先生のご家族の応援もた

いへん献身的であり感激させられる。

筆者は最年長の見学者だったので、岩田先生がご配慮くださり、岩田先生の指導を受けるようにご配慮くださったのには恐縮した。局後、言われなければ気づかないようなポイントを幾つかご指摘いただき、たいへん勉強になった。それは一手の手の善悪の問題ではなく、全局的な盤上の構想の問題であり、これは本ではなかなか学べない内容であった。

この後、会が指定したお相手と二局対戦させていただいたが、いつになく一生懸命打ったので終わると頭の疲れを感じることとなった。最初は六段の会員、二局目は七段の方がお相手であったが、胸を貸してくださったことに感謝をしたい。会員の方々はみな紳士であり、たいへん雰囲気の良い会であり、感心させられた。

その後、まだ少し時間があり、岩田先生の胸を借りていた澤口さんの対局の局後検討を拝聴させていただき、これも観ているだけで勉強になった。あとから聞くと、囲碁三田会のトップクラスの打ち手である澤口会員、大山ゲストが若い女性に苦戦を強いられていたようであるが、女性と言えども院生経験者だそうだから、プロとあまり変わりがなく、OB強豪の苦戦は当然だったのである。会が終わりの時間になったので、岩田先生にお礼のご挨拶をさせていただき、同時に塾関係の囲碁ファンを岩田会にご案内することをお約束しながら、会を辞した。

そして、帰路につきながら、囲碁三田会の会員で関心のある方には、多数岩田会にご参加されることをお勧めしたいと思った。

会の運営に少し触れると入会金は 10000 円、ただし先生のご厚意で塾員の場合は特別に免除して下さるとのことである。これはありがたいが、あまり公にしない方が望ましいだろう。会費は年会費が 15000 円だけである。あとは参加費が参加のつど 5000 円、これについてはすでに言及した。

さて、三田会会員が参加を考えると一番心配なのは「自分のような棋力で参加資格があるだろうか?」という点であると想像する。確かに現在は有段者以上のメンバーが大多数であるが、お聞きすると、級位者、それも初級者でも実は大歓迎したいというお話である。というのは、だれでも最初から強いわけがなく、最初はみな初級者の道を通り、その後に勉強の機会を得て棋力を挙げてきた経験をお持ちのはずだからである。だから、岩田会としてはその棋力向上の勉強の過程に手を差し伸べたいと考えているので、初級者の増加は大歓迎であるという結論になるわけである。要するに、岩田会参加に関しては、棋力が高いほど発言力が認められるというものではないということである。この点では、囲碁三田会の運営趣旨とよく似ている。

そのような認識で、「いまより、もう少し、囲碁に触れる時間を増やしてもいい」とお考えの方々には岩田会への参加をお勧めする次第である。なお、来年 1 月に以降に無料見学をご希望の方は、加藤代表幹事にお申し出になることをお勧めする。その連絡方法がわからない方は筆者 E メール (ykiga@wd6.so_net.ne.jp) にご連絡いただきたい。